Roland

RD-150
DIGITAL PIANO

取扱説明書

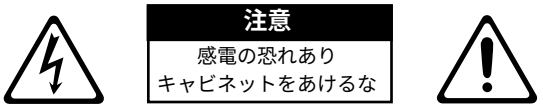
この機器を正しくお使いいただくために、ご使用前に「安全上のご注意」（P.2）と「使用上のご注意」（P.4）をよくお読みください。また、この機器の優れた機能を十分ご理解いただくためにも、取扱説明書をよくお読みください。取扱説明書は必要なときにすぐに見ることができるよう、手元に置いてください。

※ MIDI は社団法人 音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。

© **2001 ローランド 本書の一部、もしくは全部を無断で複写・転載することを禁じます。**

安全上のご注意

マークについて　この機器に表示されているマークには、次のような意味があります。



注意： 感電防止のため、パネルやカバーを外さないでください。
この機器の内部には、お客様が修理／交換できる部品はありません。
修理は、お買い上げ店またはローランド・サービスに依頼してください。

このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。

このマークは、注意喚起シンボルです。取扱説明書などに、一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表わしています。

火災・感電・傷害を防止するには

⚠警告と⚠注意の意味について

⚠ **警告**	取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を表わしています。
⚠ **注意**	取扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される内容を表わしています。 ※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を表わしています。

図記号の例

	△は、注意（危険、警告を含む）を表わしています。 具体的な注意内容は、△の中に描かれています。 左図の場合は、「一般的な注意、警告、危険」を表わしています。
	⃠は、禁止（してはいけないこと）を表わしています。 具体的な禁止内容は、⃠の中に描かれています。 左図の場合は、「分解禁止」を表わしています。
	● は、強制（必ずすること）を表わしています。 具体的な強制内容は、● の中に描かれています。 左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表わしています。

以下の指示を必ず守ってください

⚠ 警告

- この機器を使用する前に、以下の指示と取扱説明書をよく読んでください。

- この機器を分解したり、改造したりしないでください。

- 修理／部品の交換などで、取扱説明書に書かれていないことは、絶対にしないでください。必ずお買い上げ店またはローランド・サービスに相談してください。

⚠ 警告

- 次のような場所での使用や保存はしないでください。

　○ 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）
　○ 水気の近く（風呂場、洗面台、濡れた床など）や湿度の高い場所
　○ 雨に濡れる場所
　○ ホコリの多い場所
　○ 振動の多い場所

- この機器の設置には、ローランドが推奨するスタンド（KS－ 12）を使用してください。

- この機器の設置にスタンド（KS－12）を使用する場合、ぐらついた所や傾いた所にスタンド（KS－ 12）を設置しないでください。安定した水平な所に設置してください。機器を単独で設置する場合も、同様に安定した水平な所に設置してください。

⚠ 警告

- 電源プラグは、必ず AC100V の電源コンセントに差し込んでください。

- 電源コードを無理に曲げたり、電源コードの上に重いものを載せたりしないでください。電源コードに傷がつき、ショートや断線の結果、火災や感電の恐れがあります。

- この機器を単独で、あるいはヘッドホン、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用した場合、設定によっては永久的な難聴になる程度の音量になります。大音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、直ちに使用をやめて専門の医師に相談してください。

- この機器に、異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や液体（水、ジュースなど）を絶対に入れないでください。

- 次のような場合は、直ちに電源を切って電源コードをコンセントから外し、お買い上げ店またはローランド・サービスに修理を依頼してください。

  - ○ 電源コードやプラグが破損したとき
  - ○ 異物が内部に入ったり、液体がこぼれたりしたとき
  - ○ 機器が（雨などで）濡れたとき
  - ○ 機器に異常や故障が生じたとき

- お子様のいるご家庭で使用する場合、お子様の取り扱いやいたずらに注意してください。必ず大人のかたが、監視／指導してあげてください。

- この機器を落としたり、この機器に強い衝撃を与えないでください。

- 電源は、タコ足配線などの無理な配線をしないでください。特に、電源タップを使用している場合、電源タップの容量（ワット／アンペア）を超えると発熱し、コードの被覆が溶けることがあります。

- 外国で使用する場合は、お買い上げ店またはローランド・サービスに相談してください。

⚠ 注意

- この機器は、風通しのよい、正常な通気が保たれている場所に設置して、使用してください。

- 本製品は当社製のスタンド（KS-12）とのみ、組み合わせて使用できるよう設計されています。他のスタンドと組み合わせて使うと、不安定な状態となって落下や転倒を引き起こし、けがをするおそれがあります。

- 電源コードを機器本体やコンセントに抜き差しするときは、必ずプラグを持ってください。

- 長時間使用しないときは、電源プラグをコンセントから外してください。

- 接続したコードやケーブル類は、繁雑にならないように配慮してください。特に、コードやケーブル類は、お子様の手が届かないように配慮してください。

- この機器の上に乗ったり、機器の上に重いものを置かないでください。

- 濡れた手で電源コードのプラグを持って、機器本体やコンセントに抜き差ししないでください。

- この機器を移動するときは、電源プラグをコンセントから外し、外部機器との接続を外してください。

- お手入れをするときには、電源を切って電源プラグをコンセントから外してください。

- 落雷の恐れがあるときは、早めに電源プラグをコンセントから外してください。

使用上のご注意

2 ページに記載されている「安全上のご注意」以外に、次のことに注意してください。

電源について

- 雑音を発生する装置（モーター、調光器など）や消費電力の大きな機器とは、別のコンセントを使用してください。
- 接続するときは、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、必ずすべての機器の電源を切ってください。
- 完全に電源を切る必要があるときは、この機器の電源スイッチを切った後、コンセントからプラグを抜いてください。そのため、電源コードのプラグを差し込むコンセントは、この機器にできるだけ近い、すぐ手の届くところのものを使用してください。

設置について

- この機器の近くにパワー・アンプなどの大型トランスを持つ機器があると、ハム（うなり）を誘導することがあります。この場合は、この機器との間隔や方向を変えてください。
- テレビやラジオの近くでこの機器を動作させると、テレビ画面に色ムラが出たり、ラジオから雑音が出ることがあります。この場合は、この機器を遠ざけて使用してください。
- 直射日光の当たる場所や、発熱する機器の近く、閉め切った車内などに放置しないでください。変形、変色することがあります。
- 故障の原因になりますので、雨や水に濡れる場所で使用しないでください。
- 本機の上にゴム製品やビニール製品などを長時間放置しないでください。変形、変色することがあります。
- 本機の上に水の入った容器（花びんなど）、殺虫剤、香水、アルコール類、マニキュア、スプレー缶などを置かないでください。また、表面に付着した液体は、すみやかに乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
- 鍵盤の上に物を置いたままにしないでください。発音しなくなるなどの故障の原因になります。

お手入れについて

- 通常のお手入れは、柔らかい布で乾拭きするか、堅く絞った布で汚れを拭き取ってください。汚れが激しいときは、中性洗剤を含んだ布で汚れを拭き取ってから、柔らかい布で乾拭きしてください。
- 変色や変形の原因となるベンジン、シンナーおよびアルコール類は、使用しないでください。

修理について

- お客様がこの機器を分解、改造された場合、以後の性能について保証できなくなります。また、修理をお断りする場合もあります。
- 当社では、この製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打切後 6 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。なお、保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店、または最寄りのローランド・サービスにご相談ください。

その他の注意について

- 本体メモリーの失われた記憶内容の修復に関しましては、補償を含めご容赦願います。
- 故障の原因になりますので、ボタン、つまみ、入出力端子などに過度の力を加えないでください。
- ディスプレイを強く押したり、叩いたりしないでください。
- ケーブルの抜き差しは、ショートや断線を防ぐため、プラグを持ってください。
- この機器は多少発熱することがありますが、故障ではありません。
- 音楽をお楽しみになる場合、隣近所に迷惑がかからないように、特に夜間は、音量に十分注意してください。ヘッドホンを使用すれば、気がねなくお楽しみいただけます。
- 輸送や引っ越しをするときは、この機器が入っていたダンボール箱と緩衝材、または同等品で梱包してください。
- エクスプレッション・ペダルは、必ず指定のもの（別売：EV-5）をお使いください。他社製品を接続すると、本体の故障の原因になる場合があります。

目次

安全上のご注意 2

使用上のご注意 4

目次 5

主な特長 6

1. 各部の名称とはたらき 7

1.1 フロント・パネル 7
1.2 リア・パネル 8

2. 接続のしかたと主な機能 9

2.1 接続のしかた 9
2.2 フット・スイッチやエクスプレッション・ペダルを使う 9
2.3 音量（ボリューム）とブリリアンス 10
2.4 デモ・ソングを聴く 10
2.5 音色を選ぶ 11
2.6 2 種類の音色を重ねる（レイヤー） 11
2.7 音色を鍵盤の左右で変える（スプリット） 12
2.8 エフェクトを使う 13
2.9 移調する（トランスポーズ） 14
2.10 鍵盤の感度を設定する（キーボード・ベロシティー） 15
2.11 メトロノームを使う 16

3. レコーダーを使う 17

3.1 演奏を録音する 17
3.2 録音したソングを再生する 17

4. その他の便利な機能 18

4.1 RD-150 のピッチを調節する（マスター・チューン） 18
4.2 古典音律を使う 18
4.3 キーボード・ベロシティがオフのときの固定ベロシティー値 19
4.4 ペダル機能 19
4.5 設定を保存する 20
4.6 工場出荷時の設定に戻す 20

5. MIDI 機能 21

5.1 MIDI 送信／受信 チャンネル 21
5.2 MIDI フィルター 22
5.3 音色番号（プログラム・ナンバー）について 23

6. 資料 24

6.1 故障かなと思ったときは 24
6.2 スプリット時の音色の自動設定 25
6.3 コーラス・オンとオフの自動設定 25
6.4 MIDI インプリメンテーション・チャート 26

主な仕様 27

主な特長

88 鍵ハンマー・アクション鍵盤を採用

ピアノとしてのナチュラルで快適な弾き心地と、デリケートな演奏表現が可能です。また鍵盤を弾く強さに応じた音色や音量の変化を 4 タイプから選択でき、自分に合った最適なタッチで演奏できます。（P.15）

鍵盤を低域と高域の 2 つに分割し、2 種類の音色を弾き分けられるスプリット機能も搭載しています。（P.12）

移調（トランスポーズ）機能も搭載。鍵盤のピッチを全体的にずらします。弾いたキーと違うキーで鳴らせるので、運指を簡単にしたり、歌手のキーに合わせてピッチを変えたりすることができます。（P.14）

ステレオのピアノ音色を含む 24 種類の内蔵音色

RD-150 は高品位な音源部を搭載しています。ステージ・ピアノの核となるピアノ音は、ステレオ・サンプリングされた贅沢なサウンドです。グランド・ピアノの持つ繊細かつ豊かな響きが楽しめます。

アコースティック・ピアノ音色以外にも、エレクトリック・ピアノやビブラフォン、ストリングスや好評のジャズ・スキャットなど、基本的な 16 音色と 8 つのバリエーション音色の合計 24 音色を内蔵し、変化に富んだステージ・パフォーマンスに対応します。

また、2 種類の音色を重ねて鳴らすレイヤー機能も搭載しています。（P.11）

レッスンに活用できる 2 トラック・レコーダー

RD-150 は、2 トラックのレコーダーを搭載しています。自分の演奏を録音して確認したり、連弾の曲を一人で練習するなど、幅広い用途で活用できます。（P.17）

またメトロノーム機能も搭載し、レッスンやレコーダーへの録音時に便利なガイドとして使えます。（P.16）

古典音律の響きを再現

バロック音楽などの古典音楽を演奏するときに、その時代に使われていた音律にすることができます。現在は平均律で調律されるのが普通ですが、当時は他の音律が使われていた時代があります。作曲された時代に使われていた音律で演奏すると当時の響きを再現することができます。（P.18）

ピアノの調律法（ストレッチ・チューニング）が可能

ピアノに使われる調律法の、ストレッチ・チューニングが可能です。低音部で少し低めに、高音部で少し高めに調律されるこの調律法は、ピアノ音色で使用すると効果を発揮します。（P.19）

表現を広げる様々な機能

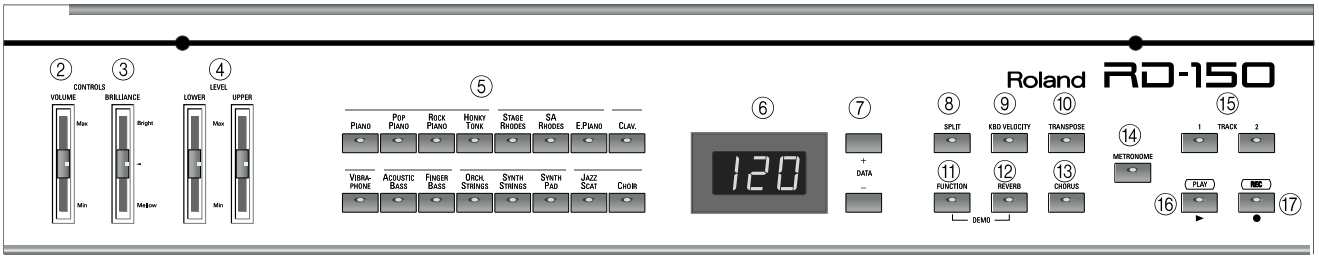
ピアノの弦の共鳴を加えるシンパセティック・レゾナンス機能を搭載。アコースティック・ピアノでは、ダンパー・ペダルを踏むと他の弦も共鳴し、音に厚みが加わります。RD-150 では、ピアノ音色でこの効果が使えます。（自動的にオンになります。）効果の深さは設定可能です。（P.14）

ソフト／エクスプレッション・ペダルによって、ピアノのペダル機能のソフト・ペダルやソステヌート・ペダルの効果（どちらか選択）も利用できます。（P.9）

音に残響を与えるリバーブ機能（P.13）や、広がりを与えるコーラス機能（P.13）も装備しています。

1. 各部の名称とはたらき

1.1 フロント・パネル



① [POWER ON] ボタン（本体右側）
RD-150 の電源をオン、オフします。

② [VOLUME]（ボリューム）つまみ
RD-150 全体の音量を調節します。

③ [BRILLIANCE]（ブリリアンス）つまみ
音の「明るさ」を調節します。

④ [LOWER]、[UPPER]（ロワー、アッパー）つまみ
レイヤー（音色を重ねる）やスプリット（右手と左手で別々の音色を使う）の演奏時に、アッパーとロワーの各音色の音量を調節します。

⑤ 音色設定ボタン
音色を選択します。ボタンは 16 個ですが、24 種類の音色を選ぶことができます。（表示されていない音色は、ホール・モード時に DATA［+］［-］ボタンを押すことで設定できます。（P.11））

⑥ ディスプレー
パラメーターや機能の設定をするときに、値を表示します。電源投入時はメトロノームのテンポ表示になります。

⑦ DATA［+/-］（データ +/-）ボタン
パラメーターの値や、テンポの設定をしたり、バリエーション音色を選択するときに使います。

⑧ [SPLIT]（スプリット）ボタン
右手と左手で違う音色を使うときにオンにします。鍵盤を分ける位置（スプリット・ポイント）は変更できます。

⑨ [KBD VELOCITY]（キーボード・ベロシティ）ボタン
このボタンは 2 つの機能があります。鍵盤のベロシティー・センスをオン、オフにするときと、ベロシティー・カーブを選ぶときに使います。インジケーターが消灯しているときは、一定のベロシティー値「64」（中ぐらいのタッチ。値は変更できます。）で発音します。

⑩ [TRANSPOSE]（トランスポーズ）ボタン
鍵盤の運指はそのままで、別の調（キー）で鳴らすときに使います。

⑪ [FUNCTION]（ファンクション）ボタン
音色設定ボタンと組み合わせて押すことで、パネルに見えていないパラメーターの設定ができます。

設定できるパラメーターは次のとおりです。

[FUNCTION]+	説明	ページ
[PIANO]	マスター・チューン	P.18
[POP PIANO]	レコーダーとメトロノームの拍子	P.16
[ROCK PIANO]	アッパーの MIDI チャンネル	P.21
[HONKY TONK]	ロワーの MIDI チャンネル	P.22
[STAGE RHODES]	プログラム・チェンジの MIDI 送受信フィルター	P.23
[SA RHODES]	エフェクトのオン、オフの MIDI 送受信フィルター	P.23
[E.PIANO]	ボリュームとエクスプレッションの MIDI 送受信フィルター	P.23
[CLAV]	ダンパーの設定	P.9
[VIBRAPHONE]	ペダルの設定（ペダル機能で）	P.19
[ACOUSTIC BASS]	Soft/Expr ジャックに接続したペダルの設定（ソフト、ソステヌート、エクスプレッションの選択）	P.20
[FINGER BASS]	古典音律など音律の設定	P.18
[ORCH.STRINGS]	音律の主音の設定	P.19
[SYNTH STRINGS]	ストレッチ・チューニングの選択	P.19
[SYNTH PAD]	キーボード・ベロシティがオフのときの固定ベロシティ値の設定	P.19
[JAZZ SCAT]	MIDI ローカル・コントロールのオン、オフ設定	P.22
[CHOIR]	パネルの設定を保存する	P.20

⑫ [REBERB]（リバーブ）ボタン
リバーブ（残響効果）をオン、オフします。

リバーブの深さは、［REVERB］を押しながら、［+］／［-］を押して調節します。

⑬ [CHORUS]（コーラス）ボタン
コーラスをオン、オフします。

コーラスの深さは、［CHORUS］を押しながら、［+］／［-］を押して調節します。

ご注意!

ピアノ音色では、シンパセティック・レゾナンス効果が自動的にオンになります。この効果の深さを調節するときは、［REVERB］と［CHORUS］を同時に押します。（P.14）

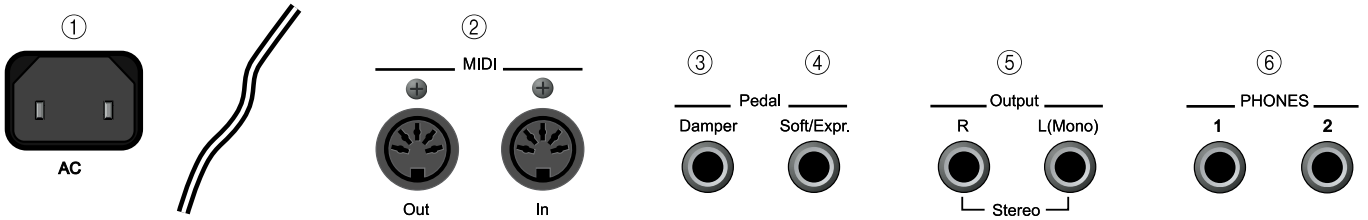
⑭ [METRONOME]（メトロノーム）ボタン
メトロノームをオン、オフします。メトロノームの音量も調節できます。

⑮ トラック［1]、[2］ボタン
録音や再生をするトラックを選びます。

⑯ [PLAY]（再生）ボタン
録音した演奏の再生、停止をします。

⑰ [REC]（録音）ボタン
RD-150 の演奏を録音します。

1.2 リア・パネル



① AC ソケット
付属の電源ケーブルを接続します。

② MIDI コネクター（MIDI In、MIDI Out）
RD-150 から他の機器をコントロールするときは、RD-150 の MIDI OUT と MIDI 機器の MIDI IN を接続します。

シーケンサーやシンセサイザーなど、他の MIDI 機器から RD-150 をコントロールするときは、RD-150 の MIDI IN と MIDI 機器の MIDI OUT を接続します。

③ Pedal［Damper]（ダンパー・ペダル）ジャック
同梱のダンパー・ペダルを接続します。ペダルを踏んでいるあいだ音が持続する、ダンパー（ホールド）ペダルです。

④ Pedal［Soft/Expr]（ソフト／エクスプレッション・ペダル）ジャック
別売の DP-2、DP-6、BOSS FS-5U フット・スイッチや、EV-5 エクスプレッション・ペダルを接続します。フット・スイッチの場合は、「ソフト」または「ソステヌート」を設定します。エクスプレッション・ペダルの場合は、エクスプレッションに設定され、抑揚をつけるときに使います。

ご注意!

フット・スイッチやエクスプレッション・ペダルの効果をどのようにかけるかを設定できます。アッパー／ロワー／両方から選択します。スプリットまたはレイヤー・モードのときに有効です。

⑤ Output［R]、[L/Mono]（出力（右、左／モノラル））ジャック
RD-150 のサウンドを出力します。

キーボード・アンプ（KC シリーズ）や、ステレオ、アンプ付きスピーカー（MA シリーズ）などに接続します。

RD-150 は、スピーカーを内蔵していません。

⑥ PHONES 1、2（ヘッドホン）ジャック
別売のステレオ・ヘッドホンを接続します。

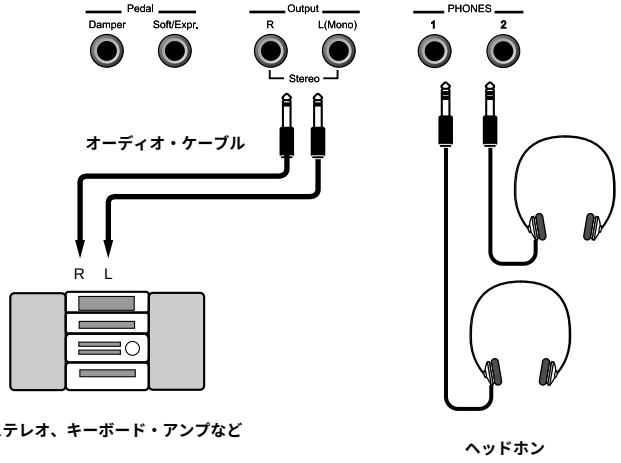
2. 接続のしかたと主な機能

2.1 接続のしかた

RD-150 は、ステレオやキーボード・アンプなどに接続することで、音を聴くことができます。モノラルのアンプを使うときは、Output（出力）ジャック［L/Mono］とアンプの入力ジャックを接続してください。アンプやスピーカーを使わずに、ヘッドホンを（2 つまで）接続して楽しむこともできます。

ご注意!

他の機器と接続するときは、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞った状態で電源を切ってください。



ご注意!

正しく接続したら、必ず次の手順で電源を投入してください。手順を間違えると、誤動作をしたりスピーカーなどが破損する恐れがあります。

ご注意!

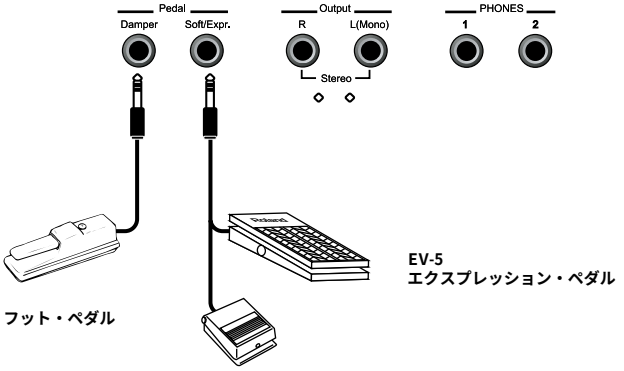
この機器は回路保護のため、電源をオンしてからしばらくは動作しません。

1. RD-150 と、接続している機器の電源をオフにします。
2. ステレオやキーボード・アンプの入力ジャックと、RD-150 の OUTPUT ジャックを接続します。

アンプ側がピン・ジャックの場合は、ローランドの PJ-1M オーディオ・ケーブル（別売品）を使って接続します。

2.2 フット・スイッチやエクスプレッション・ペダルを使う

［Damper］と［Soft/Expr］ペダル・ジャックがあります。それぞれ、次の図のように接続します。



ダンパー（ホールド機能）ペダルを接続する

ペダルを踏むと、音がホールド（サステイン）します。

1. 付属のダンパー・ペダルを、RD-150 の［Damper］に接続します。
2. ［POWER ON］を押して、電源をオンにします。
3. サスティンを効かせるには、ダンパー・ペダルを踏みながら鍵盤を弾きます。
4. サステインを止めるときは、ダンパー・ペダルから足を離します。

メモ

レイヤーやスプリット機能を使っているときは、両方またはどちらの音にサステインを効かせるか設定できます。
（P.19）

エクスプレッション・ペダルやフット・スイッチを接続する

［Soft/Expr］に、別売の DP-2、DP-6、BOSS FS-5U フット・スイッチや、EV-5 エクスプレッション・ペダルを接続することで、ソフトやソステヌートなどの機能が使えます。

ご注意!

エクスプレッション・ペダルは、必ず指定のもの（別売：EV-5）をお使いください。他社製品を接続すると、本体の故障の原因になる場合があります。

フット・スイッチを接続したときの機能

ソフトまたはソステヌート効果が使えます。効果の選択は P.20 をご覧ください。

ソフト： スイッチを踏むと、音量を抑え、音がソフトになります。

ソステヌート： ダンパー・ペダルと似ていますが、スイッチを踏む時にキー・オンしている音だけをホールドします。スイッチを踏んだ後にキー・オンしてもホールドしません。

メモ

レイヤーやスプリット機能を使っているときは、両方またはどちらの音に効果を効かせるか設定できます。（P.20）

エクスプレッション・ペダルを接続したときの機能

オルガンのペダルと同じように音量をコントロールすることができます。スウェル効果（クレシェンドやデクレシェンド）も可能です。（RD-150 には、オルガンの音色は内蔵されていません。）

ご注意!

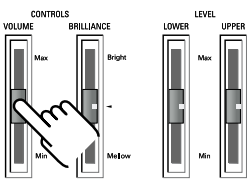
フット・スイッチとエクスプレッション・ペダルのどちらが接続されているかは、自動的に検出します。

メモ

レイヤーやスプリット機能を使っているときは、両方またはどちらの音に効果を効かせるか設定できます。（P.20）

2.3 音量（ボリューム）とブリリアンス

［VOLUME］を動かすと、全体の音量を調節できます。「Max」にすると音量が最大になり、「Min」にすると音が出ません。



メモ

ヘッドホンの音量も、［VOLUME］で行います。

［BRILLIANCE］を動かすと、音の明るさを調節できます。「Bright」にすると音が明るくなり、「Mellow」にすると音が丸く、柔らかくなります。

2.4 デモ・ソングを聴く

RD-150 には、16 曲のデモ・ソングが搭載されています。

1. ［FUNCTION］を押しながら、［REVERB］を押します。

ディスプレーに「 dEM 」と表示されます。

2. 音色選択ボタンのいずれかを押して、デモ・ソングを選びます。

再生が始まります。その後、順にデモ・ソングが自動的に演奏されます。

3. ［FUNCTION］を押しながら、［REVERB］を押すと、通常の演奏モードに戻ります。

ご注意!

これらのデモ・ソングを個人で楽しむ以外に権利者の許諾なく使用することは、法律で禁じられています。

ご注意!

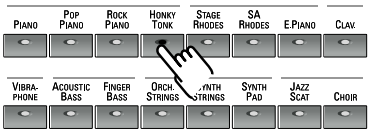
デモ・ソングの演奏データは MIDI OUT コネクターからは出力されません。

2.5 音色を選ぶ

RD-150 では、次の 24 種類の音色が使えます。(*) が付いた音色は、バリエーション音色です。

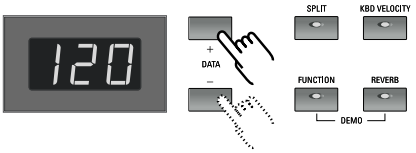
[PIANO]	コンサート用グランド・ピアノの音です。ステレオで豊かなリバーブ効果がかかります。
Piano 1*	コンサート用グランド・ピアノの音です。
[POP PIANO]	目立った明るいピアノ音です。ポピュラー音楽やバンド演奏に適しています。
Classic Piano*	落ち着いたヨーロピアン・ピアノ音です。クラシック音楽の演奏に適しています。
[ROCK PIANO]	アタックが強調されたピアノ音です。ロックやバンド演奏に適しています。
[HONKY TONK]	少しチューニングが外れたピアノ音です。明るく楽しい雰囲気を作ります。
[STAGE RHODES]	クラシック電子ピアノの荘厳な音です。
[SA RHODES]	ローズ・ピアノ音です。音に広がりがあり、クリアで美しい音がします。
[E.PIANO]	一般的なエレクトリック・ピアノ音です。
[CLAV]	弦を弾いた音をアンプで増幅させたクラビ音色です。リズミックな演奏に向いています。
Clav 1*	上記と少し違ったクラビ音です。
Harpsichord*	繊細で洗練されたハープシコードの音です。
[VIBRAPHONE]	ビブラホンの音です。
Marimba*	マリンバの音です。
Glockenspiel*	グロッケンシュピールの音です。
[ACOUSTIC BASS]	コントラバスを指で弾いた音です。
[FINGER BASS]	エレキ・ベースを指で弾いた音です。(ピック等を使用していない音です)
Voice Bass*	ジャズ・スキャットのベースの声です。
[ORCH. STRINGS]	美しい弦楽アンサンブルの音です。
[SYNTH STRINGS]	スロー・アタックのシンセサイザー・ストリングス音です。
[SYNTH PAD]	暖かい感じのシンセサイザー・パッド音です。コード伴奏に適しています。
[JAZZ SCAT]	鍵盤を弾く強さによって 4 種類の声を出すジャズ・スキャットです。スプリット機能で、Voice Bass* と組み合わせると良いでしょう。
[CHOIR]	暖かい感じのコーラス音声です。
Choir 1*	上記と少し違ったコーラス音声です。

[1] 通常の音色は、音色選択ボタンを押して選択します。



[2] バリエーション音色 (* が付いた音色) は、次の手順で設定します。

1. 音色選択ボタンを押し、レイヤーやスプリット機能をオフにします。
2. バリエーション音色に切り替える音色選択ボタンを 1 つ押します。
3. 音色選択ボタンを押しながら、DATA [+] か [-] を押して、バリエーション音色に切り換えます。

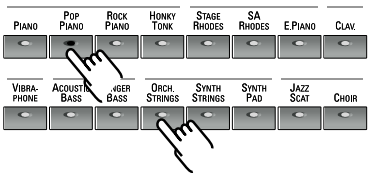


バリエーション音色を選ぶときには、いくつか音を出して確認してみましょう。

2.6 2 種類の音色を重ねる (レイヤー)

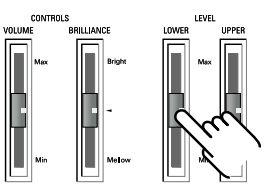
RD-150 では、2 種類の音色を重ねて演奏することができます。これをレイヤーといいます。よく使う組み合わせはピアノと弦楽器ですが、他の音色との組み合わせも試してみましょう。(ピアノとローズ・ピアノの音など) 例として、Pop Piano と Orch.Strings を組み合わせてみましょう。

1. [POP PIANO] を押しながら、[ORCH.STRINGS] を押します。



ボタンのインジケーターが両方とも点灯し、レイヤー機能がオンになります。鍵盤を弾くと、両方の音色が鳴ります。

2. LEVEL [UPPER] と [LOWER] で、音量バランスを調節します。



先に押したボタンの音がアッパー側、後に押したボタンがロワー側になります。

3. レイヤーを解除して 1 つの音色にするには、音色選択ボタンを 1 つだけ押します。

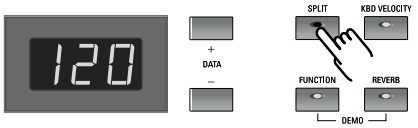
4. 音色の組み合わせを変えたいときは、手順 1. からやり直します。

メモ

どちらの音色にペダル効果をかけるか選べます。（P.19）

2.7 音色を鍵盤の左右で変える（スプリット）

鍵盤をアッパー（UPPER）とロワー（LOWER）の 2 つに区切ることで、右手と左手で違う音色を鳴らすことができます。鍵盤を 2 つに分けることをスプリットといい、区切る場所をスプリット・ポイントといいます。



1. 右側（アッパー）の音色を選びます。

2. ［SPLIT］を押します。（インジケーターが点灯します。）

［SPLIT］を押す前に選んでいた音色が右側に割り当てられます。これをアッパー音色といいます。RD-150 は、自動的に鍵盤左側で使う音色（ロワー音色）を選び、アッパーかロワーもしくは両方を移調します。（P.25）

メモ

ロワー音色は、変更することができます。

3. Level［LOWER］と［UPPER］で、音量バランスを調節します。

4. スプリット機能を解除するには、もう一度［SPLIT］を押します。

メモ

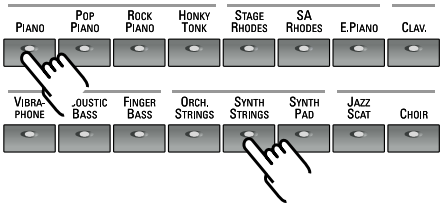
どちらの音色にペダル効果をかけるか選べます。（P.19）

スプリットで使う音色を変更する

スプリット機能を使っている状態（［SPLIT］インジケーターが点灯）で、アッパーやロワーの音色を変えることができます。

アッパー音色は、音色選択ボタンを押して切り替えます。（ロワー音色は、そのままです。）

ロワー音色は、アッパー音色のボタンを押しながら、ロワーで使う音色選択ボタンを押します。

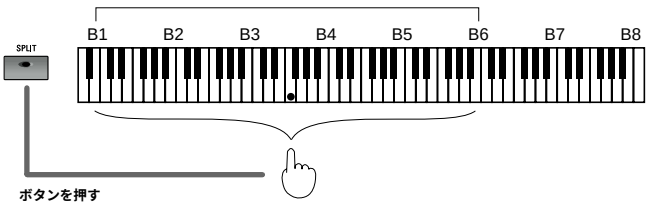


アッパー音色のボタンを押しながら、ロワー音色のボタンを押す

スプリット・ポイントを変更する

スプリットのときは、Gb3 のキーを境にして、アッパーとロワーに分かれます。スプリット・ポイントの鍵は、アッパー音色に含まれます。

このスプリット・ポイントは、B1 から B6 キーの間で自由に設定できます。



1. ［SPLIT］を押しながら、DATA［+］または［-］を押します。

選んだノート・ナンバーがディスプレーに表示されます。

メモ

［SPLIT］を押しながら、スプリット・ポイントに設定するキーを押すことでも設定できます。

ご注意!

設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。（P.20）

2.8 エフェクトを使う

RD-150 では、コーラス、リバーブ、シンパセティック・レゾナンスの 3 種類のエフェクトを使うことができます。

コーラスとリバーブは、すべての音色で使えますが、シンパセティック・レゾナンスは、ピアノ音色でのみ使うことができます。

音に広がりを出す（コーラス）

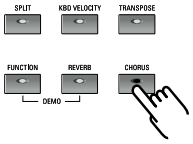
コーラスとは、複数の楽器で音を鳴らしているようなアンサンブル効果のことです。豊かに広がる存在感のある音になります。コーラス効果の深さは、8 段階で設定できます。

コーラスをオン、オフする

1. ［CHORUS］を押して、ボタンのインジケーターを点灯させます。

コーラスがオンになりました。

オフにするには、もう一度［CHORUS］を押してインジケーターを消灯させます。



メモ

コーラス・エフェクトは、音色ごとにオン、オフの状態を憶えます。

ご注意!

設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。（P.20）

コーラスの深さを変更する

効果の深さはあらかじめ設定されていますが、次の手順で変更することができます。

1. ［CHORUS］を押しながら、DATA［+］または［-］を押します。

ご注意!

設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。（P.20）

残響を加える（リバーブ）

リバーブを使うと、コンサート・ホールで演奏しているような響きが加わります。リバーブ効果の深さは、8 段階で設定できます。

リバーブをオン、オフする

1. ［REVERB］を押して、ボタンのインジケーターを点灯させます。

リバーブがオンになりました。

オフにするには、もう一度［REVERB］を押してインジケーターを消灯させます。

メモ

リバーブ・エフェクトは、音色ごとにオン、オフの状態を憶えます。

ご注意!

設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。（P.20）

リバーブの深さを変更する

効果の深さはあらかじめ設定されていますが、次の手順で変更することができます。

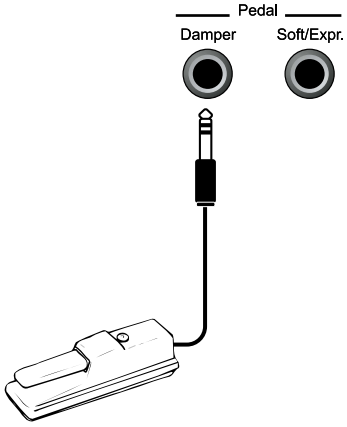
1. ［REVERB］を押しながら、DATA［+］または［-］を押します。

ご注意!

設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。（P.20）

ピアノの弦の共鳴を加える（シンパセティック・レゾナンス）

アコースティック・ピアノでは、ダンパー・ペダルを踏むと他の弦も共鳴し、音に厚みが加わります。RD-150 は、ピアノ音色でこの効果が使えます。（［Piano］～［Rock Piano］と、それらのバリエーション音色）シンパセティック・レゾナンスは、これらの音色を選ぶと自動的にオンになります。効果の深さは 8 段階で設定できます。この効果は、［Damper］にペダルを接続しているときのみ有効です。



1. ［CHORUS］と［REVERB］を同時に押します。

ディスプレーにシンパセティック・レゾナンス効果の深さが表示されます。

2. ［CHORUS］と［REVERB］を同時に押しながら、DATA［+］または［-］を押します。

ご注意!

設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。（P.20）

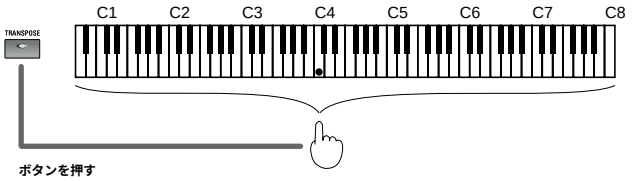
ご注意!

レイヤーやスプリットのときは、ここで設定した深さが両方の音色に効きます。

2.9 移調する（トランスポーズ）

トランスポーズ機能は、鍵盤のピッチを全体的にずらします。弾いたキーと違うキーで鳴らすことができます。簡単な指使いで難しい曲を弾く場合や、歌手のキーに演奏を合わせる場合などに便利です。

鍵盤を使って、トランスポーズの設定をする



1. ［TRANSPOSE］を押しながら、調の主音（トニック）のキーを押します。

［TRANSPOSE］のインジケーターが点灯し、移調されたキーで演奏することができます。

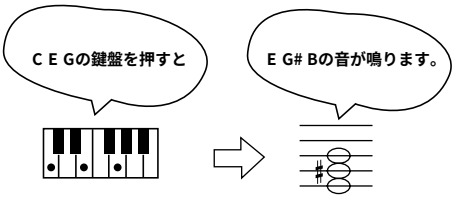
インジケーターが点灯していないときは、移調されていません。（C のキーを弾けば、C の音が鳴ります。）

トランスポーズ機能は、［TRANSPOSE］を押してオン、オフします。

ご注意!

設定は電源を切るまで有効です。移調量の設定については、保存操作をすると電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。（P.20）

■例：C メジャーの指使いで E メジャーの曲を弾く



［TRASNPOSE］を押しながら、E のキー（E1、E2、E3、E4、E5、E6、E7 のいずれか）を押します。C のキーを弾くと、E の音が鳴ります。

ボタンを使ってトランスポーズの設定をする

1. ［TRASNPOSE］を押しながら、DATA［+］または［-］を押します。

ボタンを 1 回押すごとに半音ずつ変化します。設定できる範囲は、-6 ～ 5 です。6 半音まで下に下げ、5 半音まで上げることができます。「0」に設定することはできません。

設定を「1」に戻したいときは、DATA［+］と［-］を同時に押します。

ご注意!

設定は電源を切るまで有効です。移調量の設定については、保存操作をすると電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。（P.20）

■例：C メジャーの指使いで E メジャーの曲を弾く

C を基準として、E は 4 半音上になります。

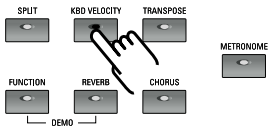
［TRASNPOSE］を押しながら、DATA［+］を押して「4」にします。

ご注意!

トランスポーズ機能は、通常の演奏時に有効です。デモ・ソングや、RD-150 の演奏を録音したソング（P.17）の再生では効きません。

2.10 鍵盤の感度を設定する（キーボード・ベロシティー）

鍵盤を弾く強さに応じて音色や音量が変化しますが、その感度を変えることができます。フォルテッシモを出しやすくしたりすることができます。また設定はオン、オフでき、オフにするとオルガンのようにタッチの強弱に反応しなくなります。



ご注意!

電源オン時は、自動的にキーボード・ベロシティーがオン（［KBD VELOCITY］のインジケーター点灯）になります。

キーボード・ベロシティーをオン、オフする

1. ［KBD VELOCITY］を押します。

オンでインジケーター点灯、オフで消灯します。

キーボード・ベロシティーをオフにすると、どの強さで弾いても同じ強さ（MIDI ベロシティー値「64」）になります。

固定ベロシティー値の設定は変えることができます。（P.19）

キーボード・ベロシティーを調節する

キー・タッチによる反応が軽すぎるときや、重すぎるときは、感度（ベロシティー・カーブ）を変えてみましょう。

1. ［KBD VELOCITY］を押して、インジケーターを点灯させます。

2. ［KBD VELOCITY］を押しながら、DATA［+］または［-］を押し、ベロシティー・カーブを選びます。

-L-（Light ＝軽い）：　鍵盤の反応が軽くなります。強い音が簡単に出せるようになるので、子供や初心者に向いています。

-H-（Heavy ＝重い）：　鍵盤の反応が重くなります。強く弾かないと強い音が出ないので、タッチによるダイナミック・レンジは広がります。

-n-（Medium ＝中程度）：中程度の重さになります。（出荷時の設定）

ご注意!

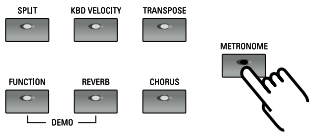
Jazz Scat 音色では、ベロシティーの強弱によって音声が変化するので、必ず「 -H- 」か「 -n- 」に設定してください。

ご注意!

設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。（P.20）

2.11 メトロノームを使う

RD-150 は、レッスン用のメトロノームを搭載しています。拍子とテンポはお好みで設定できます。メトロノームの音量は 128 段階で設定できます。



1. ［METRONOME］を押して、メトロノームをスタートさせます。

もう一度ボタンを押すと、メトロノームが止まります。

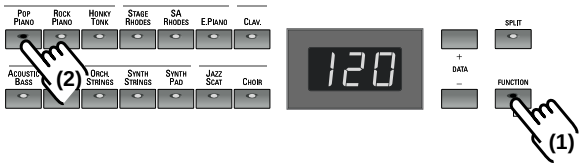
2. ［METRONOME］を押しながら、DATA［+］または［-］を押して音量を設定します。(0 ～ 127)

3. DATA［+］または［-］を押して、メトロノームのテンポを設定します。

設定できる範囲は、四分音符 =40 ～ 210 です。

メトロノームの拍子を設定する

4 分の 4 拍子に設定されていますが、他の拍子に変えることができます。



1. ［FUNCTION］を押してインジケーターを点灯させます。

2. ［POP PIANO］を押します。

ディスプレーに、現在の設定が表示されます。(「4-4」など)

3. DATA［+］または［-］を押して拍子を設定します。

設定可能な拍子は、次の通りです。

0-4	強拍（各小節の頭の音）だけを鳴らします。
2-4	4 分の 2 拍子
3-4	4 分の 3 拍子
4-4	4 分の 4 拍子（出荷時の設定）
5-4	4 分の 5 拍子
6-4	4 分の 6 拍子
3-8	8 分の 3 拍子
6-8	8 分の 6 拍子
9-8	8 分の 9 拍子

4. ［FUNCTION］を押して終了します。

ご注意!

メトロノームの各種設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。(P.20)

3. レコーダーを使う

3.1 演奏を録音する

RD-150 は、2 トラック・レコーダーを搭載しています。新しい曲のアイデアを保存したり、演奏したソングを録音することができます。

ご注意!

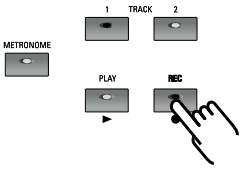
RD-150 には、録音したソングのデータを外部のシーケンサーなどに移す機能がありません。したがってソングを外部シーケンサーに保存したい場合は、演奏時に外部シーケンサーで録音してください。

1. 音色を選びます。(P.11)

コーラスやリバーブのオン、オフやテンポなども必要に応じて設定します。

録音中にテンポや拍子を変えることはできません。

2. ［REC］を押します。



空のトラック・ボタンのインジケーターが点滅します。

この状態をレコーディング・スタンバイ・モードといいます。

テープ・レコーダーでは、左右のスピーカー用に 2 つのチャンネルを使います。それぞれのチャンネルの音を録音するところを「トラック」といいます。

RD-150 でも同じようなシステムになっています。右手と左手の演奏を別々のトラックに録音して、1つづつ再生しながら片手の練習をすることもできます。

また、それぞれのトラックに違うパートを録音して、2 人分の演奏をすることもできます。スプリットやレイヤーを使った演奏では、2 つの音が同じトラックに録音されます。

ご注意!

録音をキャンセルするには、もう 1 度［REC］を押します。

3. TRACK［1］か［2］を押して、録音に使うトラックを選びます。

ボタンのインジケーターが点滅します。(点滅しているトラックに録音されます。)

ご注意!

録音するとトラックに元々録音されていたデータが消去されますのでご注意ください。

別トラックのインジケーターが点灯していると、録音中にそのトラックが再生されます。再生したくないときは、トラックのボタンを押してインジケーターを消灯させます。

4. 録音時にメトロノームを鳴らすには、［METRONOME］を押します。

メトロノームの設定については P.16 をご覧ください。

5. ［PLAY］を押します。

2 小節のカウント・インの後に、録音が始まります。

［PLAY］を押さずに演奏を始めた場合は、カウント・インなしですぐに録音を始めます。

6. ［PLAY］ボタンを押して、録音を停止します。

録音についての注意

レコーディング・スタンバイ・モードのとき、すでに録音されているトラックのボタンを押すと、点灯、点滅、消灯が切り換わります。点滅にすると新しい演奏が録音されるトラックになります。このまま録音すると前回の演奏は消去され、呼び出すことができなくなりますのでご注意ください。

録音できる音符の数には限度があります（約 5,000 音)。ペダルを使うと、その情報も録音されますので、録音できる音数が少なくなります。

録音メモリーが少なくなると［REC］の点滅が速くなります。録音メモリーが無くなると［REC］のインジケーターが消え、録音が自動的にストップします。

3.2 録音したソングを再生する

1. ［PLAY］を押します。

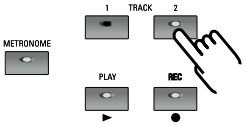
再生を止めたいときは、もう一度［PLAY］を押します。

2. 必要に応じて DATA［+］または［-］を押して、再生テンポを変えます。

テンポを変えても、ピッチは変わりません。

ひとつのトラックだけを再生する

1. 再生しないトラックのボタンを押し、インジケーターを消灯させます。



2. ［PLAY］を押して、再生を始めます。

3. もう一度［PLAY］を押すと、ストップします。

4. その他の便利な機能

この章で解説する機能は、［FUNCTION］を使います。いつも必要な機能ではないですが、いざというときに便利です。

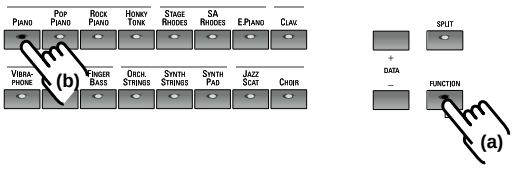
4.1 RD-150 のピッチを調節する（マスター・チューン）

他の楽器や CD プレーヤーに合わせて演奏するときは、それらとピッチを合わせる必要があります。

RD-150 はデジタル楽器なので、マスター・チューンが狂うことはありません。またチューニングを変えるといっても、弦の 1 本づつを調節するのではなく、いくつかボタンを押すだけの簡単なものです。

1. ［FUNCTION］を押してインジケーターを点灯させます。

2. ［PIANO］を押します。



ディスプレーに、現在の A4 キーの周波数が表示されます。（百の位「4」が省略されています。）

440Hz（出荷時の設定）のときは「 40.0 」と表示されます。例えば 415.3Hz に設定すると「 15.3 」と表示されます。

3. DATA［+］または［-］を押して、A4 キーの周波数を変更します。

設定可能な範囲は、415.3 ～ 466.2 Hz です。通常は 440 Hz に設定されています。

4. ［FUNCTION］を押して終了します。

ご注意!

設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。（P.20）

4.2 古典音律を使う

RD-150 は、バロック音楽などの古典音楽を演奏するときに、その時代に使われていた音律にすることができます。

現在では、平均律という音律で楽器が調律されていますが、クラシック音楽では他の音律が使われていた時代もあります。作曲された時代に使われていた音律で演奏すると、その作品が意図する響きを再現することができます。

1. ［FUNCTION］を押してインジケーターを点灯させます。

2. ［FINGER BASS］を押します。

3. DATA［+］または［-］を押して、音律を選びます。

ご注意!

音律によっては、主音（トニック）を設定する必要があります。詳細は以下の説明をご覧ください。

EQU：平均律：	1 オクターブを 12 等分した音律です。（出荷時の設定）
PYt：ピタゴラス音律：	古代ギリシャで発明された音律です。4 度と 5 度の濁りがなく、メロディーが美しく聴こえますが、3 度の和音に濁りが生じます。
nAJ：純正律（長調）：	5 度と 3 度の濁りをなくした音律です。和音では美しく響きますが、音階が均一でないためメロディーの演奏には不向きです。
nIn：純正律（短調）：	短調の曲を弾くときに使う音律です。
nnt：中全音律：	純正律を一部変更して転調を可能にした音律です。
uEr：ヴェルクマイスター：	中全音律とピタゴラス音律を合わせた音律で、どのキーでも演奏できるように調律されています。
HIr：キルンベルガー：	中全音律と純正律を改良した音律で、転調を可能にした音律です。どのキーでも演奏できるように調律されています。

4. ［FUNCTION］を押して終了します。

ご注意!

設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。（P.20）

主音（トニック）を設定する

平均律以外の音律を使うときには、演奏する曲の調によって、主音を設定します。（長調では「C」、短調では「A」など）

1. ［FUNCTION］を押してインジケーターを点灯させます。

2. ［ORCH.STRINGS］を押します。

3. DATA［+］または［-］を押して、主音を選びます。

ディスプレーではインターバルを表示します。C から D への移調は「3」、5 度の移調は「8」になります。

4. ［FUNCTION］を押して終了します。

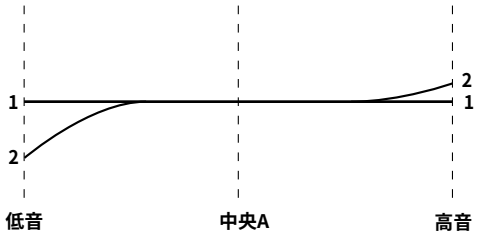
ご注意!

設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。（P.20）

ストレッチ・チューニング

ストレッチ・チューニングは、ピアノのみに使われる調律法です。ピアノのピッチは、平均律と比べると、低音部では低めに、高音部では高めに合わせてあります。

平均律で調律すると、低音部ではシャープぎみに、高音部ではフラットぎみに聞こえるからです。チューニング・カーブを変えると、和音が微妙に変化します。



1. ［FUNCTION］を押してインジケーターを点灯させます。

2. ［SYNTH STRINGS］を押します。

3. DATA［+］または［-］を押して、ストレッチ・チューニングを選びます。

-1-： 通常のチューニング・カーブで、ストレッチ・チューニングはかかっていません。レイヤーや、ピアノ以外の音色を使うときに向いています。（出荷時の設定）

-2-： ストレッチ・チューニングの調律です。ピアノのソロ演奏に向いています。

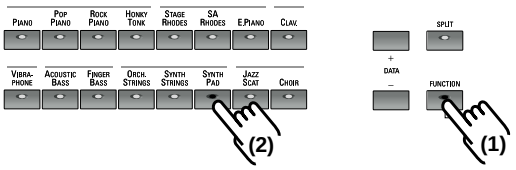
4. ［FUNCTION］を押して終了します。

ご注意!

設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。（P.20）

4.3 キーボード・ベロシティがオフのときの固定ベロシティー値

［KBD VELOCITY］がオフのときは、タッチの強弱に関わらず一定のベロシティー値で鳴ります。ここでは、そのときのベロシティ値を設定します。



1. ［FUNCTION］を押してインジケーターを点灯させます。

2. ［SYNTH PAD］を押します。

3. DATA［+］または［-］を押して、ベロシティー値を設定します。（出荷時の設定は「64」）

設定可能な範囲は、1 ～ 127 です。値が大きくなるほど大きな音で鳴ります。

4. ［FUNCTION］を押して終了します。

ご注意!

設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。（P.20）

4.4 ペダル機能

RD-150 には、［Damper］と［Soft/Expr］のジャックがあります。

［Damper］には、DP-2 や DP-6 などのダンパー・ペダルを接続します。［Soft/Expr］には、フット・スイッチ（DP-2、DP-6、BOSS FS-5U）やエクスプレッション・ペダル（EV-5）などを接続します。（P.9）

これらを使用するときには、設定が必要です。

ダンパー・ペダルを使うための設定

レイヤーやスプリットのときに、どのようにダンパー・ペダルの効果を効かせるか設定します。

アッパー音色のみ、ロワー音色のみ、両方、のどれかを選ぶことができます。

1. ［FUNCTION］を押してインジケーターを点灯させます。

2. ［CLAV］を押します。

3. DATA［+］または［-］を押して、項目を選びます。

   -U- ： アッパー音色だけにダンパー・ペダルが効きます。（出荷時の設定）

   -L- ： ロワー音色だけにダンパー・ペダルが効きます。

   U-L ： アッパーとロワーの両方の音色にダンパー・ペダルが効きます。

4. ［FUNCTION］を押して終了します。

設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。（P.20）

Soft/Expr ジャックの機能

[Soft/Expr] を使うための設定

フット・スイッチとエクスプレッション・ペダルのどちらを接続しているかは、自動的に認識されます。

フット・スイッチを接続した場合は、ソフトとソステヌート（P.9）のどちらの機能にするのか設定します。

エクスプレッション・ペダルを接続した場合は、この設定は不要です。

1. ［FUNCTION］を押してインジケーターを点灯させます。
2. ［ACOUSTIC BASS］を押します。
3. DATA［+］または［-］を押して、項目を選びます

   SFt ： ソフト・ペダル（出荷時の設定）

   Stn ： ソステヌート・ペダル

4. ［FUNCTION］を押して終了します。

設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。（P.20）

[Soft/Expr] に接続したフット・スイッチやエクスプレッション・ペダルを使うための設定

レイヤーやスプリットのときに、どのように効果を効かせるか設定します。

アッパー音色のみ、ロワー音色のみ、両方、のどれかを選ぶことができます。

1. ［FUNCTION］を押してインジケーターを点灯させます。
2. ［VIBRAPHONE］を押します。
3. DATA［+］または［-］を押して、項目を選びます。

   -U- ： アッパー音色だけに効果がかかります。（出荷時の設定）

   -L- ： ロワー音色だけに効果がかかります。

   U-L ： アッパーとロワーの両方の音色に効果がかかります。

4. ［FUNCTION］を押して終了します。

設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。（P.20）

4.5 設定を保存する

［FUNCTION］での設定（ローカル・オン／オフは除く）や、エフェクト設定、メトロノーム設定、移調量の設定、キーボード・ベロシティの種類設定など、各種設定を保存することができます。保存しておくと電源を入れるたびに設定し直す必要がありません。

保存は一組みしかできません。したがって設定の保存をすると、元々保存されていた設定は無くなります。

1. ［FUNCTION］を押してインジケーターを点灯させます。
2. ［CHOIR］を押します。

ディスプレーに「 Sto 」と表示されます。

3. DATA［+］を押します。

設定が保存されます。

4. ［FUNCTION］を押して終了します。

4.6 工場出荷時の設定に戻す

保存されている設定を消去し、工場出荷時の状態に戻すことができます。

1. ［REC］と［PLAY］を押しながら、本体右の電源スイッチをオンにします。
2. ディスプレーに「 Fct 」と表示されたら、ボタンを離します。

工場出荷時の状態に戻りました。

5. MIDI 機能

RD-150 と MIDI 機器を接続する場合は、RD-150 の設定が必要です。

MIDI（ミディ）とは、Musical Instruments Digital Interface の略です。MIDI を使うと、電子楽器やコンピューター間で楽器の演奏情報や音色の選択情報などを伝えることができます。MIDI は世界で共通の規格であり、メーカーや楽器が異なっていてもそれぞれの楽器の性能に応じて演奏情報を伝えることができます。MIDI では「鍵盤を弾く」「ペダルを踏む」といった情報を、MIDI 信号というデータ形式に変換してやりとりします。

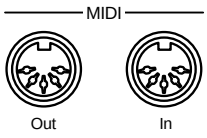
MIDI 機器を接続する

RD-150 は、MIDI 信号の送受信のために MIDI コネクターを 2 つ装備しています。

外部の機器を接続すると、RD-150 の可能性がよりいっそう広がります。

MIDI コネクター

RD-150 には、MIDI IN と MIDI OUT の 2 つの MIDI コネクターがあります。これらと他の機器を接続すると、他の機器から RD-150 を操作したり、RD-150 から他の機器を操作することができます。例えば、MIDI 機器や楽器を接続して、RD-150 からそれらを演奏することができます。



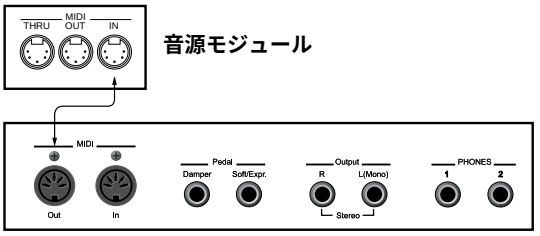
MIDI OUT- RD-150 から MIDI 情報を外部 MIDI 機器に送信します。

MIDI IN- 外部 MIDI 機器からの MIDI 情報を受信します。

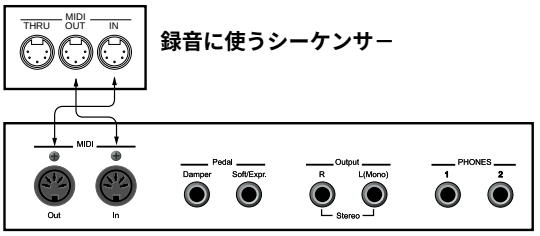
MIDI 機器を接続する

1. RD-150 の電源をオフにします。
2. MIDI ケーブルで、接続する機器の MIDI コネクターと、RD-150 の MIDI コネクターを接続します。

接続例：RD-150 から音源モジュールをコントロールする



接続例：MIDI シーケンサーの接続



5.1 MIDI 送信／受信 チャンネル

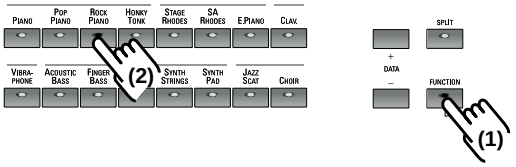
MIDI には 1 から 16 までのチャンネルがあります。機器の間では、MIDI チャンネルを合わせることでコミュニケーションがとれるようになります。RD-150 は、2 つの MIDI チャンネルを設定できます。ひとつは、アッパー側用、もうひとつはレイヤーやスプリットのときにロワー側で使います。ホール・モード（レイヤーやスプリットでないとき）では、アッパー側のチャンネルだけを使います。

ご注意!

設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。（P.20）

アッパー側の MIDI チャンネルを設定する

1. ［FUNCTION］を押してインジケーターを点灯させます。
2. ［ROCK PIANO］を押します。



3. DATA［+］または［-］を押して、アッパー側の MIDI チャンネルを設定します。

（1 ～ 16、OFF から選びます。）

4. ［FUNCTION］を押して終了します。

ロワーの音に使う MIDI チャンネル

1. ［FUNCTION］を押してインジケーターを点灯させます。
2. ［HONKY TONK］を押します。
3. DATA［+］または［-］を押して、ロワー側の MIDI チャンネルを設定します。

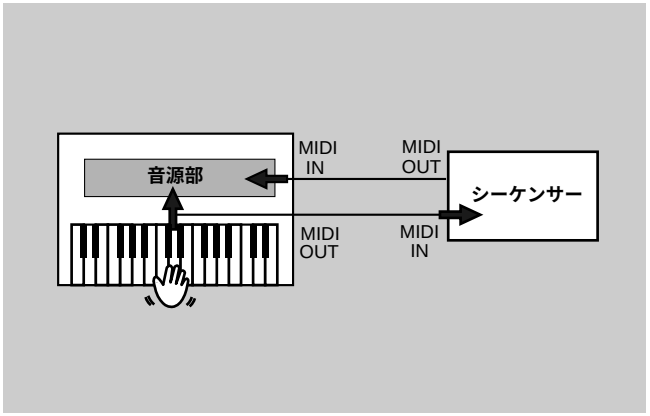
（1 ～ 16、OFF から選びます。）

4. ［FUNCTION］を押して終了します。

5.2 MIDI フィルター

ローカル・コントロール

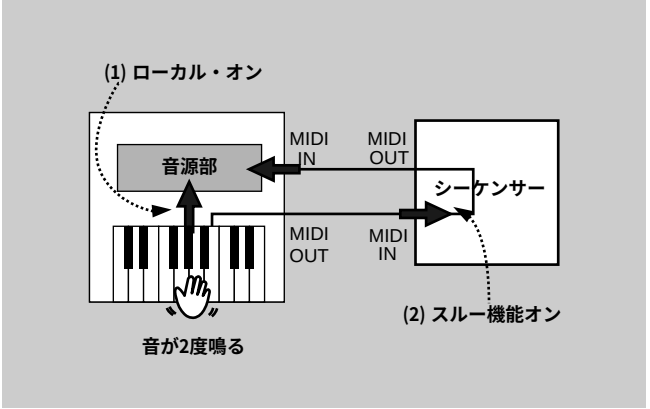
RD-150 と MIDI シーケンサーを接続して、シーケンサーで RD-150 の演奏を録音することができます。



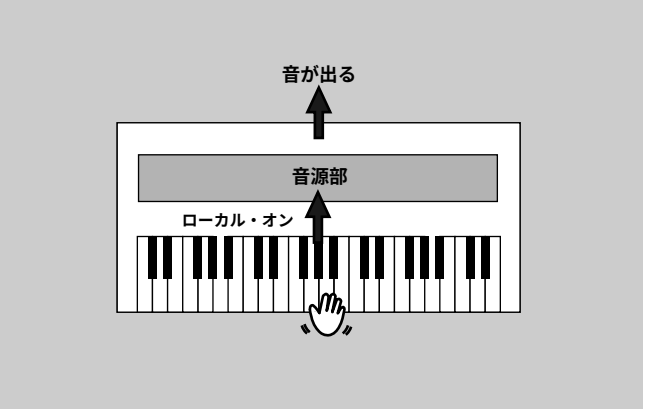
シーケンサーのスルー機能（MIDI IN で受信した情報を MIDI OUT に送信する機能）がオンになっていると、RD-150 の演奏情報がシーケンサーから再び戻されてしまうので、同じ音が 2 度鳴ってしまいます。（ほとんど重なって鳴ります。）

これは、RD-150 の鍵盤からの情報が、2 通りの経路を通って内蔵音源に届くためです。これでは、思った通りの演奏をすることができません。

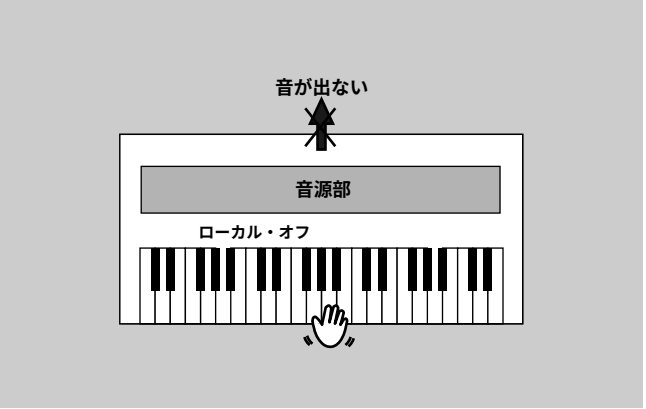
そこで、この問題を防ぐためにローカル・オフの設定をします。



ローカル・オン： RD-150 の鍵盤と音源部が接続されています。通常はこの設定です。



ローカル・オフ： 鍵盤と音源部が切り離され、鍵盤を弾いても音が出ません。シーケンサーと接続する際に使うことがあります。



1. ［FUNCTION］を押してインジケーターを点灯させます。
2. ［JAZZ SCAT］を押します。
3. DATA［+］または［-］を押して、on かOFF を選びます。
4. ［FUNCTION］を押して終了します。

ご注意!

設定は、電源を切るまで有効です。電源投入時は常にオンになります。

ローカル機能は、「MIDI ローカル・コントロール」を使って外部から設定することもできます。

MT シリーズなどのミュージック・プレーヤーを接続する場合は、プレーヤーをオンにするとローカル・オフが送信されます。これは、先に MT をオンにしてから RD-150 の電源を入れると有効になります。

プログラム・チェンジの送受信フィルター

プログラム・チェンジとは、音色切り換え情報のことです。他の機器から RD-150 の音色を切り換えたり、RD-150 から他の機器の音色を切り換えたりできます。

ここでは、プログラム・チェンジ情報を送受信する／しないの設定を行ないます。

1. ［FUNCTION］を押してインジケーターを点灯させます。
2. ［STAGE RHODES］を押します。
3. DATA［+］または［-］を押して、on（送受信する）か OFF（送受信しない）を選びます。
4. ［FUNCTION］を押して終了します。

ご注意!

設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。（P.20）

エフェクト・オン／オフの送受信フィルター

MIDI では、コーラスやリバーブなどのエフェクトのオン／オフもできます。このフィルター設定がオンになっていると、RD-150 のコーラス・ボタンやリバーブ・ボタンのオン／オフをしたときに、接続している機器へも MIDI 情報を送信します。

1. ［FUNCTION］を押してインジケーターを点灯させます。
2. ［SA RHODES］を押します。
3. DATA［+］または［-］を押して、on（送受信する）か OFF（送受信しない）を選びます。
4. ［FUNCTION］を押して終了します。

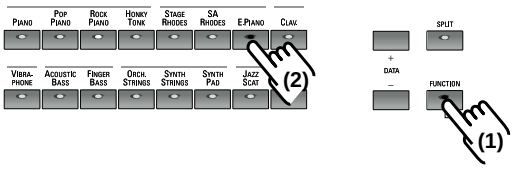
ご注意!

設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。（P.20）

ボリュームとエクスプレッションの送受信フィルター

［LOWER］と［UPPER］のつまみで音量を調節したときに、アッパー側やロワー側の MIDI チャンネルにコントロール・チェンジ（ボリューム（CC07））情報が送信されます。また別売のエクスプレッション・ペダル（EV-5）を使ったときに、同じくコントロール・チェンジ（エクスプレッション（CC11））情報が送信されます。ここでは、これら送受信のオン／オフを設定します。

1. ［FUNCTION］を押してインジケーターを点灯させます。



2. ［E.PIANO］を押します。
3. DATA［+］または［-］を押して、on（送受信する）か OFF（送受信しない）を選びます。
4. ［FUNCTION］を押して終了します。

ご注意!

設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。（P.20）

5.3 音色番号（プログラム・ナンバー）について

音色を切り換えると、RD-150 から MIDI プログラム・ナンバーを送信します。MIDI 経由でこの情報を受信すると、音色選択ボタンを押したのと同じ動作をします。

- アッパー側とロワー側、それぞれプログラム・ナンバーの送受信ができます。MIDI チャンネルの設定のしかたは P.21 をご覧ください。
- プログラム・チェンジの送受信フィルターが on になっているときのみ、送受信ができます。

Piano.....01	Vibraphone..... 13
Piano1.....02	Marimba 14
Pop Piano 04	Glockenspiel..... 15
Classic Piano 05	Acoustic Bass..... 16
Rock Piano 06	Finger Bass..... 17
Honky Tonk.....03	Voice Bass..... 18
Stage Rhodes.....07	Orch.Strings..... 19
SA Rhodes 08	Synth Strings 20
E.Piano.....09	Synth Pad..... 21
Clav 12	Jazz Scat 22
Clav 1.....11	Choir..... 23
Harpsichord.....10	Choir 1..... 24

6. 資料

6.1 故障かなと思ったときは

動作がおかしいと思ったら、まず次の項目をお確かめください。

電源が入らない

電源コードがしっかり差し込まれていますか？

音が出ない

RD-150、アンプ、ミキサーの電源が入っていますか？

接続は正しく確実にされていますか？

接続ケーブルが不良ではありませんか？

［VOLUME］や［UPPER］、［LOWER］などのつまみが下がっていませんか？

アンプやミキサーのボリュームが下がっていませんか？

ローカル・オン／オフの設定がオフになっていませんか？（P.22）

接続している他の MIDI 機器（外部音源）の音が出ない

外部音源の電源が入っていますか？

接続ケーブルが不良ではありませんか？

外部音源のボリュームが下がっていませんか？

RD-150 の送信チャンネルと外部音源の受信チャンネルが合っていますか？（P.21）

鍵盤を弾くと音が 2 度鳴りする

レイヤーになっていませんか？（P.11）

シーケンサーを接続している場合は、シーケンサーのスルー機能をオフにするか、RD-150 をローカル・オフにしてください。（P.22）

鳴らない音がある

RD-150 は 64 ボイスまで同時に発音できますが、実際に発音できる音数は音色によって異なります。音色の中には、最適な音色を得られるように複数のボイス（部分音）を組み合わせたものがあります。例えば 2 つのボイスで構成される音色を 1 音鳴らすには 2 ボイス使いますので同時発音数は 32 音になります。録音したソングを再生しながら演奏すると、思ったより音数が重なって 64 ボイスを越えてしまいやすくなります。

鍵盤のピッチがおかしい

マスター・チューンの設定がずれていませんか？（P.18）

［TRANSPOSE］の設定は正しいですか？（P.14）

音律（P.18）やストレッチ・チューニング（P.19）の設定がされていませんか？

フット・スイッチやエクスプレッション・ペダルが正しく動作しない（効かない／効果が効いたたままになる）

ペダルのジャックはしっかり差し込まれていますか？

音の強弱が思いどおりにならない

キーボード・ベロシティーの設定は正しいですか？（P.15）

6.2 スプリット時の音色の自動設定

スプリットにすると、アッパーおよびロワー音色が次の組み合わせになります。

スプリット（スプリット・ポイントの初期設定：Gb3）

アッパー（右）	ロワー（左）
1. Piano (-1 オクターブ)	Ac.Bass
2. Pop Piano (-1 オクターブ)	Ac.Bass
3. Rock Piano (-1 オクターブ)	Finger Bass
4. Honky Tonk (-1 オクターブ)	Ac.Bass
5. Stage Rhodes (-1 オクターブ)	Finger Bass
6. SA Rhodes (-1 オクターブ)	Finger Bass
7. E.Piano (-1 オクターブ)	Finger Bass
8. Clav (-1 オクターブ)	Finger Bass
9. Vibraphone (-1 オクターブ)	Ac.Bass
10. Acoustic Bass (-2 オクターブ)	Piano 1 (+2 オクターブ)
11. Finger Bass (-2 オクターブ)	Stage Rhodes (+2 オクターブ)
12. Orch.Strings (-1 オクターブ)	Ac.Bass
13. Synth Strings (-1 オクターブ)	Ac.Bass
14. Synth Pad (-1 オクターブ)	Ac.Bass
15. Jazz Scat (-1 オクターブ)	Ac.Bass
16. Choir (-1 オクターブ)	Ac.Bass

スプリット時にロワー側で使う音色のオクターブ設定

1. Piano	+2
2. Pop Piano	+2
3. Rock Piano	+2
4. Honky Tonk	+2
5. Stage Rhodes	+2
6. SA Rhodes	+2
7. E.Piano	+2
8. Clav	+2
9. Vibraphone	+2
10. Acoustic Bass	-
11. Finger Bass	-
12. Orch.Strings	+2
13. Synth Strings	+2
14. Synth Pad	+2
15. Jazz Scat	+2
16. Choir	+2

6.3 コーラス・オンとオフの自動設定

使う音色によって、コーラスが自動的にオンになります。

1. Piano	OFF
2. Pop Piano	OFF
3. Rock Piano	OFF
4. Honky Tonk	OFF
5. Stage Rhodes	OFF
6. SA Rhodes	ON
7. E.Piano	ON
8. Clav	OFF
9. Vibraphone	OFF
10. Acoustic Bass	OFF
11. Finger Bass	OFF
12. Orch.Strings	OFF
13. Synth Strings	OFF
14. Synth Pad	OFF
15. Jazz Scat	OFF
16. Choir	OFF

6.4 MIDI インプリメンテーション・チャート

DIGITAL PIANO
Model RD-150

MIDIインプリメンテーション・チャート

Date : Feb. 07, 2001
Version : 1.00

ファンクション...		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	アッパー:1 / ロワー:2 1～16	アッパー:1 / ロワー:2 1～16	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × **********	モード3	
ノート ナンバー	：音域	15～113 **********	0～127 15～113	
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○ × 8n v=64	○ ×	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンド		×	×	
コントロール チェンジ	6, 38 7 11 64 66 67 91 93 100,101	○ ○ *1 ○ *1 ○ *1 ○ *1 ○ *1 ○ *1 ○ *1 ○	○ ○ *1 ○ *1 ○ *1 ○ *1 ○ *1 ○ *1 ○ *1 ○	データ・エントリー ボリューム エクスプレッション ホールド1 ソステヌート ソフト エフェクト1 (リバーブ) エフェクト3 (コーラス) RPN LSB, MSB
プログラム チェンジ	：設定可能範囲	○ (0～44) *1 **********	○ (0～127) *1 0～44	
エクスクルーシブ		○	○ *1	
コモン	：ソング・ポジション ：ソング・セレクト ：チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム	：クロック ：コマンド	× ×	× ×	
その他	：オール・サウンド・オフ ：リセット・オール・コントローラー ：ローカルON/OFF ：オール・ノート・オフ ：アクティブ・センシング ：システム・リセット	× × × × ○ *1 ×	× ○ ○ ○ (123～127) ○ ×	
備考		＊1 ○×切り換え可能		

モード 1 : オムニ・オン、ポリ　　モード 2 : オムニ・オン、モノ　　O : あり
モード 3 : オムニ・オフ、ポリ　　モード 4 : オムニ・オフ、モノ　　X : なし

※ この機器の MIDI 動作仕様をくわしく説明した「MIDI インプリメンテーション」（別売）があります。プログラミング等で必要なかたは、販売店に注文してください。

主な仕様

RD-150：デジタル・ピアノ

＜鍵盤＞

88 鍵（ハンマー・アクション鍵盤）

●鍵盤タッチ

4 段階（軽い／標準／重い／オフ（固定））

●キーボード・モード

ホール

レイヤー

スプリット（スプリット・ポイント設定可能）

＜音源＞

●最大同時発音数

64 音

●音色数

24 音色

●エフェクト

リバーブ（8 段階）

コーラス（8 段階）

シンパセティック・レゾナンス（8 段階）

●キー・トランスポーズ

-6 ～ +5（半音単位）

●音律

7 種類

●マスター・チューン

415.3 Hz ～ 466.2 Hz（0.1 Hz 単位）

＜レコーダー＞

●メトロノーム

拍子：0/4、2/4、3/4、4/4、5/5、6/4、3/8、6/8、9/8

音量調節：128 段階

●トラック数

2 トラック

●記憶曲数

1 曲

●記憶音数

5,000 音

●テンポ

4 分音符 =40 ～ 210

●分解能

120 クロック／ 4分音符

＜その他＞

●表示器

7 セグメント 3 桁 LED

●接続端子

アウトプット端子（L/Mono、R）

ヘッドホン端子 x2（ステレオ）

MIDI 端子（In/Out）

ペダル端子（ダンパー、ソフト／エクスプレッション）

●電源

AC 100 V（50 Hz/60 Hz）

●消費電力

8 W

●外形寸法

1,380（幅）x320（奥行）x105（高さ）mm

●質量

22.5 kg

●付属品

取扱説明書

保証書

譜面立て

電源コード

ペダル・スイッチ

●別売品

MIDI インプリメンテーション

キーボード・スタンド（KS-12）

ペダル・スイッチ（DP-2/6）

エクスプレッション・ペダル（EV-5）

MIDI ケーブル（MSC-15/25/50）

※　製品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

お問い合わせの窓口

商品のお取り扱いに関するお問い合わせは・・・ お客様相談センターまでご相談ください。
尚、お問い合わせの際には取扱説明書を
ご用意ください。

お客様相談センター　受付時間：午前10時～午後5時（土、日曜、祝日および弊社規定の休日を除く）

＜電話番号＞

■ 大阪　TEL (06) 6345-9500　　**■ 東京　TEL (03) 3251-6150**

＜住所＞

〒530-0004　大阪市北区堂島浜1-4-16　大和堂島ビル7F

修理に関するお問い合わせは・・・商品をお求めの販売店か、保証書に同封されている「サービスの窓口」に記載の営業所、サービス・ステーション、またはサービス・スポットまでご相談ください。

※上記窓口の名称、所在地、電話番号等は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。　'99　1. 20 現在

● 取扱説明書の英語版（有料）をご希望の方は、販売店にお問い合わせください。
If you should require an English Owner's Manual (at a modest fee), please contact an authorized Roland distributor.

ローランド株式会社

'01-3-C2-11N